

2011 高校生のための文化講演会

(主催:財団法人一ツ橋文芸教育振興会・北海道新聞社)

作家の川上健一氏が遺愛に来校！！



5月19日(木)の1・2時間目に、遺愛アリーナで、遺愛の高校生587人対象に『ほんとうに好きなことを見つけよう』という題で作家・川上健一氏の文化講演会が開かれました。

川上氏は青森県十和田市生まれ。『雨鱒の川』『翼はいつまでも』が代表作です。スポーツ小説、青春小説のジャンルで印象深い作品を残しています。

講演では…高校までの川上氏は野球ばかりで、投手としてプロを真剣に目指していた。ところが肩を壊し挫折し、就職のために上京。川上氏が本を読み始めたのは19才の時からで、ある女性との出会いからであった。その女性が五木寛之の本を勧めてくれたがまるで読めなかった。その当時は言葉を満足に知らず本も読んだことがなかったからだ。でも1行、1行と読んでいくうちに次第に読めるようになっていった。さらに、自分の読みたい本(小説)を自分で書いてみようと思い27才の時に初めて小説を書くが、40才の時にストレスのために体を壊し、10年間文筆から離れて療養した。小説家になろうと本気に思ったのは50才からだ。…そのような経験から、自分のほんとうにやりたいことは実は自分の身の回りにあること。今の自分がやりたいことを一生懸命やると、ほんとうに好きなことは必ず見つかるので、あせる必要はないこと。壁にぶつかることもあると思うが、ほんの1cmでもいいから勇気をもって前にふみだすことをこころがけよう。そして自分は決して一人でないことを心にとめてほしい。どうしようもない、ろくでもない、人の役に立ちそうもない自分でも必ず人の役に立っているのだ。そして人の役に立つことはとても嬉しいことである。そのためにも、まず自分を好きになることが大切である…と強調していました。

最後に「壇上から遺愛の生徒の皆さんを見てみると、皆輝いている！！とてもうらやましい」と語っていました。川上健一氏は遺愛の皆さんが熱心に講演を聴いてくれたことをとても喜んでいました。また、歴史のある校舎、美しいキャンパスをとても気に入り、ぜひまた訪れたいとおっしゃっていました。最後にこのような素晴らしい講演を聴く



機会を遺愛に与えて下さった財団法人一ツ橋文芸教育振興会・北海道新聞社に心から感謝します。また、一ツ橋文芸教育振興会の母体である集英社から遺愛へ文庫本100冊の寄贈があったことをご報告し、重ねて感謝いたします。

2011年5月19日